

## 平成25年度くるくるバス利用促進協議会 会議録

日 時 平成26年2月7日（金） 午前10時から午後11時30分まで

場 所 碧南市役所2階談話室1

出席者 利用促進協議会委員 14名

事務局 4名

傍聴者 2名

### 会議内容

#### 1 経済環境部長あいさつ

#### 2 議題

議題前にくるくるバス概要について商工課長より説明。

##### (1) くるくるバスの利用状況について

事務局より、資料1に基づき近年の利用状況について説明。

##### <質疑応答>

委 員：乗りこぼれについて、時間帯や場所は決まっているか。

事務局：東部市民プラザ（浴室）の利用者が多い。

委 員：恒常的な乗りこぼれはあるのか。

事務局：混雑しやすい傾向の便はある。また文化会館や芸術文化ホール等でのイベント時に定員が超過することも。恒常的な乗りこぼしが連日あるわけではない。

委 員：常連客が多い中で、その都度当然のようにタクシーで対応するのではなく、固定客には1便遅らせる等の対応をしてはどうか。苦情の声はないのか。

名鉄知多：定員超過になりそうなときに、常連客が一番後ろに並んでタクシー輸送を利用するという例はある。

委 員：定員超過となると、それ以降のバス停にも影響が出てくる。抜本的な対策を考える必要がある。

事務局：固定客ばかりという問題は確かにあるが、このサービスをやめてしまうことにより、イベントなどで、本当にバスに乗れなかったお客さんにとっては不便になってしまい、抜本的な対策はなかなか難しいものがある。来年度が契約更新の時期にもあたるため、事務局としても意見をまとめるなかで更新の際に、定

員超過にどんな対策があるのか、ご提案いただきたい。

## (2) くるくるバス利用者アンケートの結果について

事務局より、資料2に基づきアンケート結果について説明。

<質疑応答>

委員：福祉センターの待合について、雨や風の対策をしてほしい。

事務局：こういったご意見があったことをバスの事務局として関係各所に話をさせていただく。すぐには対応ができないかもしれないが、庁内で検討させていただきたい。

(→後日、事務局が確認し、雨対策の工事を行うことを委員に連絡した。)

委員：あんくるバスの乗り入れについて、どんな段階なのか。両市にとってどんな意見があるか話しあう必要がある。

事務局：安城市が行ったアンケート結果で、東端地区の住民から碧南市民病院への乗り入を希望する声があり、まずもって碧南市として受け入れが可能か、相談という段階。

事務局：平成21年にくるくるバスが安城市の榎前に乗り入れを開始したが、時間帯によって乗り継ぎがスムーズに行かないときがある。市民病院ではくるくるバスの全路線すべてが乗り入れており、乗り継ぎの良さが期待される。安城市の路線という点、くるくるバスのダイヤ改正となると大幅な変更が必要となる点、諸問題があるが、今後事務局としても上手く調整が図れるようにしたい。

事務局：まだ段階としては相談という立場で何も決まっていはいない状態。今後、詳細等決まったら、ご報告させていただく。

## (3) 新道町・踏分町のバス停設置について

事務局より、資料3に基づき説明。

事務局：12月議会の中で、新道住宅にバス停を、といった一般質問があった。路線変更となると全路線に対してダイヤ改正が必要になる。新道住宅と新道住宅の中心に路線が通っていることから、この2つの住宅の中心あたりに新規にバス停を設けることなら可能ではと認識している。ただ、該当箇所には交差点等が入り組んでおり、近隣バス停も利用者数が多くはない。この点について、ご意見をお聞かせ願いたい。

委員：個人的な意見だが、500mのコンセプトがあるなら、崩さない方が良い。一部の人の細かい意見まで全て取り入れるのは難しいと思う。

事務局：外周では192箇所、内週では83箇所のバス停を設けており、市域の規模からすると非常に多くなっている。これは500mのコンセプトに基づき、その立場をなるべく変えずに運行しているため。一方で、公共施設が新たにできたり、市営住宅等の高齢化率も勘案する中で、地区からの要望が大きくなってきた場合は、検討していく必要があると考えている。現状から判断して、事務局としてはダイヤや路線の見直しなどがあつた場合にあわせて今回の箇所も検討したい。

委員：現地もみておらず、乗車経験がないなかで判断するのは難しい。責任は事務局が負うのか。

事務局：協議会開催にあたっては、事前に議題をお伝えするなどして、実りある意見を広くいただけるように見直しをしていきたい。基本的には事務局である商工課が責任を持って行う。

委員：事務局の原則論でよいと思う。あれもいい、これもいいではきりが無い。便利になったようで、実際取り入れると大きな影響を及ぼすこともあると思う。ありあまる財源ならまだしも、やれない部分については我慢が必要。私たち高齢者でも無料でいいのかという思いはある。将来的には有料でよいと思う。

委員：この箇所は新しい道ができてから、大変交通量が多くて危険性が高くなった。昨年の春に地区から要望して、カラー舗装等を対策してもらった。ここにバス停を設置するのは無理があるのでは。交通安全担当とも意見交換してもらえればと思う。

事務局：ありがとうございました。本日いただいた意見を参考に事務局としてすすめていきたい。

#### (4) 意見交換等

委員：個人的に高齢者の方10人程度にきいたところ、くるくるバスを有料化してもかまわないとのことだった。CSミーティングで質問したところ、有料化しても経費的に変わらないと回答されたが、本当かなと思う。

事務局：無料から有料になることでバスの改造や運行委託についての諸経費が増額

となり、収益との差引が同額程度であるなら、無料のまま継続したいと考えている。

委員：運行業者さんから何か発言は。利用者への対応等について。

名鉄知多：毎日顔をあわせている利用者の方に対して、親しみをこめて挨拶したところ、他の利用者から良く思われないなどの難しい面はある。わけ隔てなく利用者の方に接するように心がけているが、利用者の方の感じられる度合いの違いに苦慮する面もある。また、乗りこぼれ対策としてタクシーの代替輸送は近隣では碧南市だけ。いろいろ皆様からご意見を頂戴して、一生懸命勤めさせていただきたい。

委員：利用者の微減について、何か対策を。

事務局：現状、微減ではあるが、今後高齢化が進むと考えられる中で、コミュニティバス事業は引き続き継続していきたい。利用者増については、バス停の時刻表に観光施設や公共施設を盛り込んだ形で刷新を計る等の対策をとりたい。

委員：身障者という立場から言わせてもらおうと、リフトの利用等で他のお客様に迷惑がかかることは無かったか。

名鉄知多：リフト利用で数分かかることはあると思うが、特に大きな問題にはなっていない。

委員：電動車いすは乗車可能だが、シニアカーについてはどうか。

事務局：リフト強度、固定強度の観点から、シニアカーについては現状の車両では対応が難しい。

委員：将来的にはどうか。

事務局：車両そのものが対応可能か、リフト自体が重量に耐えられるものがあるかなど確認する。

委員：年に1回でも誰かが乗るのであれば対応してほしい。

事務局：来年度の車両更新のこともあり、変更できるかどうか検討させてほしい。

→後日、事務局が確認したところシニアカー対応リフトを設置することにより貨物車となる可能性が高く、強度の問題もあり、シニアカーの乗車が難しいことを、ご発言いただいた委員の方に連絡した。

委員：時刻表の刷新については、とても良いと思う。今回あがった意見については限られた予算の中でやるんだろうから、中庸という立場を踏まえつつ、いろんな

意見については耳を傾けてもらいたい。

以上